

5. 各部・各学年の努力目標

(1) 教務部

- ① 職員朝会と職員会議の効率的な運営に努める。
- ② 各部・学年会との連携を密にし、行事の精選に努め、年間実授業時数の確保及び調整に努める。
- ③ 教育課程の充実に努める。
- ④ 総合的な学習の時間がスムーズに行えるよう体制を整える。
- ⑤ 内規の整備を図る。
- ⑥ 各種委員会の活性化に努める。
- ⑦ 教育関係資料・表簿の整理・点検・保管の徹底を図る。
- ⑧ P T Aとの連携を密にして、教育活動の充実に努める。
- ⑨ 高大連携の取り組みを推進する。
- ⑩ 追認考査対象者全員に、追認考査を受験させるよう努める。
- ⑪ コースの特色を明確にした学校説明会を計画し、実施する。

(2) 生徒指導部

- ① 各学年と連携し、きめ細かい勤怠指導・身なり指導を行い、望ましい学習環境や自発的学習態度を育てる。
- ② 規範意識を高め、社会に適応できる生徒を育てる。
- ③ 交通安全に気を付け、行動できる生徒を育てる。
- ④ 各行事での企画、運営等を生徒が中心となり、学校のリーダー及び自主性を育てる。

(3) 進路指導部

- ① 生徒の適性にあった進路を主体的に選択決定する能力・態度を育成する。
- ② 進路指導が各学年において段階的・系統的に行われるようにする。
- ③ ホームルーム担任・生徒・保護者との連携を密にし、「進路のしおり」および諸情報の活用充実に努める。
- ④ 基礎学力の定着及び大学入試に対応する諸講座・模擬試験を実施し、小論文指導の充実、諸講座受講の奨励、模擬試験の有効活用を図る。
- ⑤ 入試全般の調査研究を深め、進路指導を充実させる。

(4) 情報・図書視聴覚部

- ① 情報関係
 - ア 校内LAN環境の整備と安全性の確保及び運用、メンテナンスの充実に努める。
 - イ 進路相談支援システムの円滑な運用とサポートを図る。
 - ウ 学校Webページを活用し、学校PR、情報発信に努める。
- ② 図書関係
 - ア 図書資料の充実と図書館利用の促進を図る。
 - イ 各教科・各学年・各部と連携を密にし、学習指導のサポートを図る。
 - ウ 図書委員会を活動させ、展示および広報活動を充実させる。
 - エ 館内の整理と美化に努める。
- ③ 視聴覚関係
 - ア 視聴覚教室及び機器の利用、整備充実に努める。
 - イ 校内放送に関する規定の周知徹底を図る。

(5) 環境保健部

【環境】

- ① 学校環境の美化、備品、設備の充実に努める。
- ② 校内緑化を推進し、美化作業を計画的に進める。
- ③ 地震・津波・防災体制を確立し施設設備の安全保持に努める。
- ④ 清掃、清潔、整理、整頓の習慣化、節電、節水、ゴミ袋等の経費削減を徹底する。
- ⑤ 公共物を大切に作る心を育成する。

【保健】

- ① 保健室を学校保健センターとして位置づけ、保健室機能の充実と健康相談活動の充実に努める。
- ② 学校保健の組織的活動を活性化させ、保健・安全教育問題の課題解決に組織的に取り組む。
- ③ 性教育をはじめとする健康教育の指導方法の工夫と充実に努め、望ましい生活習慣が実践できる生徒の育成に努める。
- ④ 新たな健康課題の解決に向けて専門機関との連携を深め、保健指導の充実に努める。

【教育相談】

- ① 教育相談活動の充実に努め、生徒の実態や問題の早期発見に努める。
- ② ホームルーム担任や教科担任、保健室や生徒指導部等との密接な連携のもとに、生徒個々の問題解決に努め、学校生活への適応を図る。
- ③ 特別支援コーディネーターとして、外部機関との連携の充実に努める。

(6) 1 学年

① 基本的生活習慣の確立

- ア. 挨拶の励行と丁寧な言葉遣いを奨励し、教師生徒間、生徒どうしの良好な人間関係を育む。
- イ. 遅刻・無届欠課・無届欠席を安易に行わないように支援し、学校生活への愛着を育む。
- ウ. 清潔な身なりと制服の正しい着用を習慣化できるように、生徒指導部と連携を図り指導する。
- エ. 机の中や個人棚等、教室環境の整理整頓を心がけ、清掃活動の充実に努める。

② 学習の充実

- ア. 予習・授業・復習の学習サイクル、及び授業中の良好な学習マナーを確立させる。
- イ. 家庭学習の定着に努める。
- ウ. 対外模試や検定試験等への積極的受験を奨励する。

③ 進路指導の充実

- ア. 進路指導部と連携し、進路目標の早期設定を促す。
- イ. 進路相談の充実に努める。

④ その他

- ア. いじめの防止及び早期発見に努め、保護者や教育相談係との連携を図る。
- イ. 学習支援が必要な生徒について、教科担任、教育相談係と連携を深めて適切な対応を行う。

(7) 2 学年

① 基本的生活習慣の確立

- ア. 挨拶の励行、コミュニケーション能力の向上を支援し、良好な人間関係を育む。
- イ. 遅刻・無届欠課・無届欠席を改善し、有意義な学校生活を過ごせるよう支援する。
- ウ. 清潔な身なりと制服の正しい着用を習慣化できるように、生徒指導部と連携を図り指導する。
- エ. 机の中や個人棚等、教室環境の整理整頓を心がけ、清掃活動の充実に努める。

② 学習の充実

- ア. 予習・授業・復習の学習サイクル、及び授業中の良好な学習マナーを定着させる。

- イ. 家庭学習時間を確保し、計画的な学習を勧める。
- ウ. 対外模試や検定試験等への積極的受験を奨励する。

③進路指導の充実

- ア. 進路指導部と連携し、進路目標を設定させ、目標に向けた具体的取り組みを促進させる。
- イ. 進路相談の充実を図り、就業体験を通して働く意義について考えさせ、将来の目標を具体化する。

④その他

- ア. いじめの防止及び早期発見に努め、保護者や教育相談係との連携を図る。
- イ. 学習支援が必要な生徒について、教科担任、教育相談係と連携を深めて適切な対応を行う。

(8) 3 学年

①基本的生活習慣の確立

- ア. 挨拶の励行、良好な人間関係の構築を支援し、豊かな社会性を育む。
- イ. 遅刻・無届欠課・無届欠席を自ら改善し、自立的に社会へ適応するように支援する。
- ウ. 清潔な身なりと制服の正しい着用を習慣化できるように、生徒指導部と連携を図り指導する。
- エ. 机の中や個人棚等、教室環境の整理整頓を心がけ、清掃活動の充実を図る。

②学習の充実

- ア. 予習・授業・復習の学習サイクル、及び授業規律・学習マナーを継続的に定着させる。
- イ. 家庭学習時間を確保し、計画的な学習を勧める。
- ウ. 対外模試や検定試験等への積極的受験を奨励する。

③進路指導の充実

- ア. 進路指導部との連携を密にし、進路目標に向けた具体的取り組みを促進させる。
- イ. 進路相談を強化し、希望進路の実現を支援する。

④その他

- ア. いじめの防止及び早期発見に努め、保護者や教育相談係との連携を図る。
- イ. 学習支援が必要な生徒について、教科担任、教育相談係と連携を深めて適切な対応を行う。

6. 各コースの努力目標

(1) 健康科学コース

- ① 競技スポーツ、生涯スポーツに関する専門的な能力の育成を図る。
- ② 学校強化指定種目（男女バレー、女子バスケット、サッカー、野球）の強化と実績の向上を図り、学校活性化に貢献する。
- ③ 健康の基本的な考えや、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識を、日常生活に役立てる。
- ④ 早期進路決定に向けて支援を行う。

(2) 文理コース

- ① 基礎的・基本的な学力を身に付け、定着を図る。
- ② 学校見学や進学相談会を通して上級学校への理解を深め、進路実現に向かう意欲を育成する。
- ③ キャリア教育を通じて望ましい勤労観、職業観を身につけ、個々の適性や興味関心にあった進路選択ができる能力と態度を育てる。

(3) 特別進学コース

- ① 国公立大学や私立大学への現役合格を目指した受験体制の確立を図る。
- ② 早朝・夏期講座、模擬試験への意欲的参加を促し、指導の徹底を図る。

- ③ 模擬試験後の解説や誤答レポートの回収を実施することにより有効活用を図る。

7. 各教科の指導目標

(1) 国語科

- ① 国語に親しむ態度を養い、基礎基本の定着を図る。
- ② 言語活動を活発化させることにより、論理的なものの見方、感じ方を養成する。
- ③ 資料や授業関連図書を積極的に活用する態度を育み、発展的学習に繋げる。

(2) 地歴・公民科

- ① 社会に関心を持ち、課題を見いだし、主体的に解決しようとする力を育てる。
- ② 郷土の自然・歴史・生活・文化の特色について理解と認識を深める。
- ③ 教科指導を通してキャリアの形成を支援し、自主性の向上を図る。

(3) 数学科

- ① 基礎基本の徹底
 - ア 基礎基本の徹底を図るため定期考査以外の確認テスト等の実施を行う。
 - イ 必要に応じてワークシート等、課題を行い指導に努める。
- ② 分かる授業、求められる授業の実現を目指し、教科内での授業改善に向けた研修を充実させる。

(4) 理科

- ① わかりやすい授業の工夫を行う。
- ② 基礎基本の徹底的理解に努める。
- ③ 実験・実習観察を通して、理解力を高める工夫を行う。

(5) 保健体育科

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

(6) 芸術科

- (音楽) 音楽の幅広い諸活動を通して、音楽の創造的な表現に必要な技能を習得させるとともに、鑑賞の能力を高め、豊かな感性と音楽を愛好する心情を養う。
- (美術) 個性を生かした創造的な活動を行い、生涯にわたって美術を愛好する心情を育て、美術文化についての理解を深め尊重する態度を養う。
- (書道) 生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすとともに書の伝統と文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

(7) 英語科

- ① わかる授業、参加する授業を目指し、基礎学力定着と応用力向上を図る。
- ② 検定・進学受験指導の充実を図る。
- ③ A L Tを活用し、英語で発表する態度を養う。

(8) 家庭科

- ① 生涯を見通して、家庭や地域生活を創造する力や実践力を身につけさせる。
- ② 実験・実習を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。
- ③ 郷土の生活文化の特色について理解を深めさせる。
- ④ 家庭クラブ活動を充実させ、学校生活や地域の生活を向上させる。

(9) 情報科

- ① 携帯機器やネットワーク機器を適切に活用できるように情報モラル教育の充実を図る。
- ② 情報処理関連資格の取得を奨励し、取り組みを充実させる。